WorldRunnersJapan
For A World Without Hunger

News Letter
for members & participants

2013年11月8日（第77号）
企画・編集　徳永 京一　佐藤 高正
発行者　加藤 典宇暉
発行所（特活）ワールドランナーズ・ジャパン
〒214-0006　川崎市多摩区菅仙谷 2-17-1-108
TEL/FAX 044-949-1068

★チャリティーラン特集号★

第21回 チャリティーラン in グローバルフェスタ JAPAN 2014

台風が近づく中、一斉スタートのランナー

今年のチャリティーラン(CR)は、台風18号接近に伴う悪天候の中での開催となりましたが、参加者216人、ボランティア・スタッフ97人で創ることができました。ご参加の皆様、ボランティア・スタッフとしてご協力頂いた皆様、本当に有難うございました。

健康広場での受付、更衣テント、荷物預かりに大変ご不便をおかけしました。また、桜田門前広場や健康広場の退避場所も限定され、体調管理にご苦労されたと思います。申し訳ありませんでした。

グローバルフェスタ(GF)のすべてのプログラムが12時で終了したため、13時から開催予定の閉会式が取りやめとなりました。閉会式でお贈りする予定だった特別賞、抽選会、クイズ大会の賞品は、10月11日に送付させて頂きました。この選定については、10月9日開催の*1コアボラミーティング時、受付で提出して頂いた誓約書をシャッフルして19人の参加者、また、コアボラ・JANIC・WRJのスタッフを除いた*2当ボラ69人の皆さまにランダムに数字を振り、10人に決めさせて頂きました。

今年の特別賞は、エントリーサイトがオープンした5月31日に申し込んで頂いた一番乗り賞、最年少(2歳)賞、最年長(77歳)賞、そして、今年の支援先(特活)パレスチナ子どものキャンペーン「パレスチナ・ガザ　聴覚障がいの子どもたちへの給食支援」の「アトファルナろう学校」が開校した1992年に因んでゼッケン末尾が92の「アトファルナ賞」です。

9時30分から5分間隔でスタートする予定でしたが、激しくなる雨の状況と桜田門前広場で待っておられる参加者が100人に満たなかったので、急遽、種目混在で一斉スタートとしました。桜田門前広場は、退避場所が限られており、待っている時間が増えるにつれ身体も冷えてくることを考え、判断させて頂きました。その後、当初予定の10時35分まで適宜スタートを繰り返しました。

環境省皇居外苑管理事務所から「ゴールテープ使用禁止」のご指導があったことを受け、「一人ひとり全員がゴールテープを切り、感動を味わって貰う」に代わるものとして、スポンジ製の巨大ハンドに笑顔でタッチして貰う方法を考えつきました。楽しんで頂けたでしょうか？

今年のコアボラは5人の女性(社会人3人学生2人)でした。なかなかエントリー数が増えず、支援金100万円超、国際協力60周年に因んだ600人の参加者を目標に、CRの前日にもGF会場のCR展示ブースでエントリー受付を精力的に行った結果、9人の参加者を創ったことは、特筆すべきことでした。

GFが途中で打ち切りとなった初めてのケースでの今年のCRは、皆様の多大なるご協力の元、無事に終了しましたことを一緒に喜びたいと思います。有難うございました。

第21回チャリティーラン実行委員長　徳永 京一（WRJ副代表理事）

＊1　コアボラ=コアボランティア
7月22日、(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)が主催したコアボラ説明会で初めて出会い、準備を行ってきた核となるボランティアのこと。CR展示ブースや閉会式の企画・運営、当ボラのサポート及び進行管理を行う。

＊2　当ボラ=当日ボランティア
グローバルフェスタ当日に活動するボランティアのこと。コアボラ・WRJと共にCR展示ブースや大会運営を行う。

支援先の選定方法について

第 13 回チャリティーラン(2006 年)から毎年、グローバルフェスタ(以下 GF)出展の NGO 団体に対して、資金を必要とするプロジェクトを公募し、グローバルフェスタ JAPAN 実行委員会チャリティーランチーム(JANIC、WRJ、コアボランティア）で審議して決定しています。

今年の応募団体数は 19 と、過去最大数に至りました。そのうち以下の 3 つの指標から各プロジェクトを評価し結論に至りました。

①自分たちが強い関心・興味を感じるかどうか
②支援する相手や与える対象数、インパクトがあるかどうか
③自立性・継続性があるかどうか

私たちは、来場者の皆様に少しでも国際協力に関心を抱いて頂けるよう、「今すぐに支援が必要で地球規模のインパクトのあるプロジェクトを紹介」することで、一人でも多くの方々へ影響を与えられるようにしたいという想いから、今回の支援先を決定しました。

（コアボラ　阪口 直美さん）

今年の支援先

■(特活)パレスチナ子どものキャンペーンの「パレスチナ・ガザ　聴覚障がいの子どもたちへの給食支援」

7 月に始まった軍事侵攻は 8 月末に停戦したが、軍事侵攻以前から封鎖による物資不足を抱えていたガザは、非常事態の中でますます物がなく、食糧など生命を維持するために最低限必要な支援が喫緊の課題である。特に弱い立場にある障がいを持った子どもを対象に、新学期から生きるエネルギーとなる給食を実施する。

【実施期間】
2014 年 10 月 5 日～2015 年 1 月 31 日

【実施内容】
・「アトファルナろう学校」で生徒 350 人(3～15 歳)に 10 月から約 4 か月間、週 5 日 1 日 1 食の温かい食事を提供する。

(特活)パレスチナ子どものキャンペーン(CCP)
http://ccp-ngo.jp/

温かい給食と“I love you”を届けよう！

CCP 様のメッセージ：
悪天候の中、走って頂いたランナーの皆様、エントリー頂いた皆様、スタッフの皆様、ご関係者全ての皆様にお礼申し上げます。

昨年の支援先の活動報告

※認定 NPO 法人国境なき子どもたち(KnK)
http://www.knk.or.jp/
(KnK) facebook　https://www.facebook.com/knk.or.jp

■認定 NPO 法人国境なき子どもたち(KnK)の「バングラデシュ国ダッカ市のストリート・チルドレンに向けたドロップインセンター事業」

アジア最貧国のひとつ、バングラデシュの首都ダッカでは、30 万人以上の子どもたちがストリート・チルドレンとして路上生活を送っている。子どもの教育を受ける権利の侵害はもとより、身体的・精神的な苦痛に苛まれる生活を送る子どもたちは、時に生命の危機に晒される状況にある。KnK は、ストリート・チルドレンとして暮らす子どもたちを対象に、週五日・9 時から 17 時まで、彼らが自由に立ち寄ることが出来るドロップインセンターを 2011 年 9 月ダッカ市内に開設した。

【実施期間】
2013 年 4 月 1 日～2014 年 7 月 31 日

【実施内容と結果】
・基礎教育とレクリエーション、朝食・昼食の提供
支援実施期間に述べ 12,713 人がセンターを利用。2014 年 6 月時、食事の回数 3 回が 74%に増加。
・啓発活動
身体の仕組み、栄養素の摂取の重要性、センターの食事の活用
・生活支援および定期的な健康診断の実施
危険な路上で生活している子どもたちはケガをすることも多い。毎日のようにケガの手当をしている。子どもたちにとっては、心配して貰える、髪や爪を切って貰える、家族代わりにケアして貰える大事な場所でもある。

手当をするスタッフ　©吉田亮人

・家族への再統合(センターを利用する子どもの手紙)

両親が離婚してお母さんが再婚したけれど、養父に殴られるのが嫌で家をでた。今は路上やバンで寝ている。僕は 2 年前からセンターに通ってるよ。友だちに誘われたんだ。他のところでは子どもがタバコを吸ったりスラングを使っていてもスタッフが注意しないけど、ここのセンターはルールがあるところがいいと思う。手足をきちんと洗ったり、歯を磨いて体を清潔にすることも学んだし、名前も書けるようになったよ！

センターを利用する子どもたちの集合写真

チャリティーラン実施報告

≪参加者数≫

	参加者数	ｴﾝﾄﾘｰ数	参加率
20km	66 人	171 人	38.6%
15km	17 人	59 人	28.8%
10km	67 人	183 人	36.6%
5km	66 人	164 人	40.2%
合計	216 人	577 人	37.4%

≪当日の気象　9 時時点　気象庁の観測データ≫

天候：雨　気温：17℃　湿度：91%

風速：2.9m/s　風向：北北東

≪支援金確定額≫

577 人×1800 円+寄付金 9000 円＝1,047,600 円

支援金総額：1,047,600 円

≪チャリティーラン運営人数≫

97 人（10 月 4 日の 2 人を含む）

≪中止になった閉会式の紹介≫

13:00～14:00（於：日比谷公園内小音楽堂）

・関係者挨拶
　JANIC 事務局長
　株式会社ウイ様
　T シャツデザイナーユニット　女子美子女様
・大会結果報告
・支援先コンペ方式の説明と選考結果報告
・支援先(パレスチナ子どものキャンペーン(CCP))へチャリティー目録贈呈
・CCP のプロジェクト内容の説明
・昨年の支援先である KnK の報告
・特別賞の授与
　一番乗り賞
　最年長賞
　最年少賞
　アトファルナ賞
・抽選会
・クイズ大会

前日閉会式リハーサルで代読
コアボラの本元 里奈さん

笑顔でゴール

T シャツデザイナーユニット
女子美子女様のメッセージ

この度は、T シャツデザインを通じて、グローバルフェスタ JAPAN 2014 第 21 回チャリティーランに参加できましたことを、寺山 香がグループを代表して感謝を申し上げます。

女子美子女は、私があるご縁でスタッフの方から T シャツデザインの相談を受けた日に、偶然に集まる約束をしていた、同窓生 4 人で結成したデザインユニットです。

卒業後、なかなか会えずにいた私達は、もちろん積もる話はテンコ盛り…、だったのですが、話題は T シャツデザインのことになり、いつしか同窓会は、デザイン会議の場となってしまいました。

一つのことを皆で考えている、この状況を眺めていて、ふと感じたのですが、一人ならハートはとっくに息切れして、萎んでしまっていたかもしれないのに、イメージはどんどん膨らみ、みるみる形になってゆく様子に、これってなんだかすごいことだなぁ…と感じていたら、いつしか私のハートも膨らんでいました。

そう、私達はこれまで、各々が「スローラン」してきたのです。マイペースに一歩一歩。全力の時もあれば、立ち止まる時もあったことでしょう。そんな一歩を積み重ねて、今ここにいるのです。

意外と「スローラン」って、難しい。まず自分のペースを知らなければできないことです。一歩一歩、瞬間瞬間を懸命に積み重ね、皆それぞれが「スローラン」してこなければ、あの久々の再会の場で、いっせーの～せ～で、日頃の「スローラン」ぶりを発揮して、一つの目的を成し遂げるなんて芸当はできなかったことでしょう。

皆が過ごしてきたミエナイ時間や、その一歩一歩を想像したら、私は足がハートの形になるくらい、愛しさを感じました。「スローラン」で走ること、それは案外、周りの世界を理解することに通じるのかもしれません。

今回、私達はこのイベントの T シャツデザインで、自分の一歩を、仲間の一歩を感じる体験が出来ました。そしてそれが一つの形になり、わずかでも誰かの役に立てるとしたら、こんなに嬉しいことはありません。やはり、足がハートをかたち作ってしまいます。自分を知ることで、周囲や他者に思いを巡らせる、それが私達のグローバルへの第一歩です。この仕事を通じて、これからも力いっぱい「スローラン」していきたいと思います。

最後に、イベントに参加された皆様、スタッフの皆様のご多幸をお祈りいたします。

↑背中側

←胸側

貢献頂き有難うございました

＜株式会社ウイ様＞　今年もボランティアの皆さんが着用していた T シャツをご提供頂きました。デザインは、T シャツデザイナーユニット女子美子女様です。ランナー、そしてボランティアともに力づけられました。

http://www.weltd.co.jp/top_jan.html

＜T シャツデザイナーユニット　女子美子女様>

＜マースジャパンリミテッド様＞

スニッカーズ

http://www.mars.com/japan/ja/index.aspx

＜株式会社アルーシャ様＞

ネイルサロンネイルチケット

http://www.arusha.co.jp/

＜虎の門本舗株式会社様＞

ハワイのドリップコーヒー

http://www.hawaiianrich.com/

＜土井 研 様＞

マレーシア製陶器と切り絵

＜ジャパンフリートレー株式会社様＞

チートス

http://www.fritolay.co.jp/

参加者の感想

畑 和義 さん

運営・ボランティアの方々、お疲れ様でした。あいにくの悪天候の為、棄権される方が多く、スタートが一斉になった等のドタバタがありましたが、無事終了された様で何よりです。

運営上の問題といいますか、受付をしてからの待ち時間が長い気がします。ウェーブスタートの関係かとは思いますが、何とかなればなぁ…とは思います。

コース等については皇居周辺を周回するのみなので、不満等はありません。

追伸　ゴール後のバナナ、今年も美味しかったです。

雨の中を走るランナー

信濃 葉子さん

ハーフマラソンにチャレンジする前に、一度 20 キロを走っておこうかと気楽な気持ちで申し込んだのですが、思いがけない状況で随分と印象深いものになりました。あの悪天候のなか走り抜いた自分も褒めてあげたいですが、それ以上にずっと雨のなかで立って「がんばってください」、「ファイト」と声をかけてくださるスタッフに感動でした。心のなかで「そちらこそがんばって！」と返していましたよ。始まる前に、着替えのテントに流れ込む水を、雑巾で吸い取ってくれていたスタッフさんにも感謝です。

終了後は寒くて、フェスタには参加せずにそそくさと帰ってしまいましたが、チャリティーでつながったランナーとスタッフの絆を勝手に感じたうれしい２時間でした。

全員で「I love you」の手話の参加者

当日ボランティアの感想

澤本 衣里さん(CR ブース、テント管理・荷物管理担当)

初めてチャリティーランにスタッフとして参加し，悪天候の中大変だったぶんとても有意義なボランティア経験になり良かったなと実感しております。私の担当はテント・荷物管理でした。雨靴とカッパ姿で長時間屋外作業する事に不安と緊張もありましたが，パレスチナの子供達への支援はもとより雨の中「走ろう！」と来場下さるランナーの方々の為に少しでも雨露をしのいでいただける場を提供したいと思い最後まで頑張りました。これからも自分にできることからボランティア活動をしていきたいです。

泥濘の中の荷物管理

泥濘の中の受付

高瀬 珠子さん(エイド担当)

雨天の分、印象に残るチャリティーランでした。ボランティアに同行した小学生の子供にも参加者の熱さが伝わった様です。日記もしっかりその感動を記していました。少しだけ給水も手伝ってくれましたが、水分をランナーに受け取ってもらったのもうれしかったようです。来年は私自身がランナーにチャレンジしてみたくなりました。そこここにポッっと温かさの残る時間でした。また、近くゲストランナーの登場も期待しています。

小林 賢司さん(誘導担当)

今回、私はボランティアで誘導として大会の運営をお手伝いさせていただきました。残念ながら天候に恵まれず、雨の降る中の開催だったため、プログラムの変更、閉会式の中止などがありましたが、大会を楽しまれている参加者の方々の様子を見て、ボランティアとしてのやりがいを感じることができました。グローバルなつながりはなかなか感じることができませんでしたが、参加してよかったと思います。

安武 ひろかさん(受付担当)

私は、都立墨田川高校の英語部の一員としてボランティアの仕事をしました。正直なところ、雨だったのも相まって、足手まといになるのではないかととても不安だったのですが、最後には「受付は安心して任せられた」と言っていただいて、すごくうれしかったです。今回のチャリティーランに参加させていただいて、とてもいい経験になりました。本当に有り難う御座いました。次回も、もしよかったら是非お手伝いさせてください。楽しみにしています。

雨の中の給水

吉原 初美さん(テント管理・荷物管理担当)

ワールドランナーズ・ジャパンのボランティアに参加したのは、二回目です。今年は、台風の影響で大雨、そして気温も低くとっても寒い一日でした。

マラソン経験のない私は、正直この状況の中で走る人がいるのかしら…?!?と、思っていましたが、次々と受付に向かわれている人を見ていると、雨の事はそれほど気にされずただ走る事ダケを楽しんでみえる様に思いました。参加される方があっての会ですから、一人ひとりを大切に対応していこう！と、思いました。

コアボランティアの感想

本元 里奈さん(閉会式担当)

閉会式チームとして閉会式の準備やランナーさんへの景品の選定などを行いました。特に本番直前は仕事量も多く、大変なときもありましたし、閉会式が雨で中止となったのは本当に残念でした。しかしみなさんと力を合わせ、企画を作りあげていくことはとても楽しかったです。SNS などを通じてチャリティーランの広報をし、何人かの友人が参加しました。走ることやイベントへの参加など、気軽なことを通して多くの人が国際協力に参加したり、興味を持ったりする機会をつくることも国際協力を広めていくうえで必要なことだと感じました。

本元 里奈さん

小笠原 香奈子さん

小笠原 香奈子さん(閉会式担当)

事前から活動するコアボラは学生以来、忙しくもありましたが、私に学びと国際協力の夢を諦めないパワーをもたらしてくれました。特に、日々増えるエントリー数、それは悪天候と知りながらも前日まで絶えず、当日は多くのランナーさんとボランティアさんにご参加いただいたこと。私達スタッフ側も最後まで全力で活動したこと。それは私の胸を熱くさせ、全ての方々に感謝でいっぱいになりました。これからも夢に向かって run していきます！ありがとうございました！

阪口 直美さん(支援先担当)

コアボラに参加したきっかけは、「NGO に携わる方や活動に触れたい」という想いからでした。参加動機は違っても初めて会う人達と短期間で同じ目標を共有して邁進できることは素晴らしい経験でした。年齢も職業も全く異なるので毎回のミーティングが新鮮で学ぶことも多かったように感じます。特に私は支援先訪問や NGO の方々とのやり取りが直接出来たことは今後自分が進みたいキャリアについてよく考えるいい機会になりました。

阪口 直美さん

小林 恵子さん

小林 恵子さん(展示ブース担当)

今まで”チャリティーラン”というイベントが毎年開催されていたことを知りませんでした。今回ボランティアに参加することで沢山のことを学びました。そして、何よりも活動を支えている素晴らしい人たちと出会うことが出来たのが私にとって一番の収穫でした！これからも自分に出来そうなことを見つけてチャレンジしていきたいと思います。素敵な機会を与えていただきありがとうございました。

坂田 理子さん(展示ブース担当)

以前から国際協力に興味があり、また同じように興味を持った人とお話しする機会をたくさんもてたらと思い、今回コアボラに応募しました。困っている人を助けたいという思いはあってもなかなか行動できない人が多いのではないか、というのが私が日頃感じる問題意識なのですが、当日はあいにくの雨の中 200 人を超える多くの人が走りに来てくださりとてもうれしかったです。今回のチャリティーランが自分にとってもランナーのみなさんにとっても、国際協力のアクションを起こす、何か一つのきっかけになればいいなと思います。

GF 会場図

坂田 理子さん

コアボラ 4 人と兵頭さん、そしてチャリラン君

ＪＡＮＩＣ お二人の感想

水の流れを変える JANIC の二人

兵頭 和也さん

グローバルフェスタというものを右も左も分からない中、JANIC スタッフ、WRJ のみなさん、当日ボランティアのみなさん、そしてコアボランティアのみなさんとチャリティーランを無事に開催出来ました。本当に関係者の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。そして、この経験からたくさんの学びがあったことを終わってからとても感じます。

特に 7 月からずっとこのチャリティーランを作り上げてきたコアボランティアの方の前向きな活動と本当のボランティア精神には背中をいつも押されてました。

今年度のグローバルフェスタは台風の影響もあり、なんとかチャリティーランを開催出来ましたが、ずっと準備してきた閉会式は中止になり、悔やまれる気持ちは正直ありました。

しかし、そんな中でも「今、やれることをやろう」「ガザの子どもたちに比べたら…」と、一番準備してきたのはコアボランティアの皆さんなのに…本当に心強かったです。

関わって下さった全ての方にとって、国際協力という枠では測れない何かしらの気づきがあった。そんなグローバルフェスタ JAPAN2014 になったと私は思っております。

たくさんのご協力本当にありがとうございました。

内海 麻奈美さん

台風接近中の中でのチャリティーラン。誰も走りにこないのでは、ボランティアさんもくるのかな？と心配していましたが、200 名を越すランナーさんと参加希望されていたほとんどのボランティアさんがいらしていました。雨の中ランナーさんを支えてくれるボランティアさん。雨が強くなる中、走りきりヘトヘトになりながらも、チャリティー先のガザの聾学校の子供たちへのフォトメッセージにも協力してくださるランナーさん（I love you の手話で写真に写る）。

「I love you」の手話の三人

この暖かさガザに、届けー！！と強く思いました。本当にたくさんの方々に支えられてチャリティーラン。協力・参加いただいたみなさんありがとうございました！！

スタッフ・ボランティアの皆さん
有難うございました！！

ポーズを決める CR 展示ブースの当ボラ高校生

WRJ展示ブースの報告

祝!!全国デビュー!?

100 円で 1 分間ランニングマシンを走って疑似的にチャリティーマラソンを体験する「襷でつなぐチャリティーリレー」は、嬉しいことに毎年メディアに取り上げられ、今年は「めざましテレビ」でレポーターの岡副麻希さんが走った様子を数秒ですが紹介されました。日曜は台風でブースは中止しましたが、土曜日はフェスタ全体のなかで WRJ が台風の目となるほどに大いに盛り上がっていたのが注目された理由なのでしょう。リピーターも多く、展示した過去の襷から昨年の自分の名前を探したり、中には「あの走るお祭りに行く」と言って来てくれたお子様もいて、スタッフ皆で感動しておりました。他にも毎日小学生新聞の子供特派員たちの取材もありました。

暗中模索で 3 年前に始めた襷リレーですが、協力して頂いた皆の努力が漸く実り、とても嬉しく思います。これからも WRJ ブースは、更に「走ることを通じて貢献する」を楽しく伝えていきます!!

（大渕 秀仁 WRJ 運営委員）

WRJ メンバーとコアボラ小笠原さん

CR 展示ブースでは、ガザの子どもたちへのメッセージを書いて貰いました。それを写真にして、最終コアボラミーティングで完成。たくさんのステキなメッセージでできたボードをガザの子どもたちに届けます。

みんなの想いが、ガザの子どもたちに届きますように！

ＷＲＪ２０１４年度事業を進めるにあたって

先ず始めに、台風接近に伴う大雨の中チャリティーランに参加下さったランナーの皆さん、そして自ら選択して大会を支えるために参加して下さったボランティアの皆さん、ありがとうございました。皆様の参加に心からの感謝を申し上げます。そして、この活動を継続的に支援してくださっている、正会員並びに賛助会員の皆様ありがとうございます。

2014 年度（2014 年 7 月～2015 年 6 月）事業については理事の皆様並びに正会員の皆様にご承認頂きました事業計画に基づき、運営委員の皆さんを中心に皆様のご協力のもと実施してゆくことになります。事業内容につきましては、「貢献のために走る機会の提供」として、10 月チャリティーラン、2 月ランニング感謝祭、5 月チャリティーリレー for AFRICA を、また WRJ の走る機会として毎月 1 回の「定期ラン」とその時々を楽しみ走る「不定期ラン」を提供してゆきます。

なお、慢性的な飢餓の終わりのための支援先 AFRICA 現地とのパートナーシップを深化しプロジェクトを前進させるためアフリカプロジェクトツアーという形でチームを現地に送る予定です。また、タンザニアでの奨学金プロジェクトを 2015 年 1 月からスタートさせます。

「走る NGO WRJ」の会話を拡大し、より多くの人達を WRJ の活動に招待してゆくというところから、今年度は具体的な目標として賛助会員 100 人の増強を掲げています。走る人も走らない人も是非 WRJ というスペースを自己表現の場として使って頂ければと願っています。

WRJ は、今年も「走る NGO」です。

皆様には、変わらぬご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2014 年 11 月 8 日
特定非営利活動法人
ワールドランナーズ・ジャパン
代表理事　加藤 典宇暉

ＷＲＪ通常総会開催報告

8 月 30 日に WRJ 通常総会を開催致しました。現在の正会員は 32 名、出席数は 20 名(本人出席 9 名、委任状出席 2 名、書面表決 9 名)でした。

加藤 典宇暉代表挨拶に続き、議長:徳永 京一、書記:矢崎 芽生、議事録署名人:加藤 典宇暉・佐藤 高正が選出されました。

第 1 号議案では、役員全員 9 月 30 日の任期満了に伴い、その選任を議場に諮ったところ、満場一致を持って、第 1 号議案の通り、理事に重任されました。被選任者は、いずれもその就任を承諾しました。なお、2013 年度で松川 文子さんが退任される紹介がありました。以降、満場一致で原案通り承認されました。

第 1 号議案	役員承認
第 2 号議案	2013 年度事業報告
第 3 号議案	2013 年度決算報告
第 4 号議案	2014 年度事業計画
第 5 号議案	2014 年度活動予算

これらの議案は HP に掲載しております。お手元に資料がない場合は、ぜひそちらもご参照ください。

事業報告・会計報告、事業計画・予算

http://www.wrj.jp/wrj.html

松川文子さん 理事退任のご挨拶

この度理事を退任することになった松川です。

WRJ に関わることになったのは、私が 20 代の終りの頃ですから、20 年以上の前のことです。きっかけは WRJ 代表の加藤さんの「アフリカに行ってフルマラソンを走らない？」という言葉でした。何も知らないままアフリカに行き、フルマラソンを走り、そして、エイズで苦しんでいる子供達を知り、また、アフリカの子供達と出会うことができました。帰りの飛行機の中で、日本の自分の住んでいるところに、同じような状況の子供がいたら、ほおって置くことなどできない。と思ったことを今でもはっきり覚えています。

アフリカに行って見てきたことは私の人生に大きな違いをつくりました。その後アフリカには 5 回行かせていただきましたが、子供が生まれたときを境に国内のイベントをできるときに手伝うという形の参加しかできなくなってしまい、理事というのも、形ばかりになっていたことを申し訳なく思っています。

今後は WRJ の一員として、活動に参加していきます。宜しくお願いします。

マサイの人たちの衣装

プムワニ給食プロジェクト その後

～平日の給食支援の継続が決まりほっとしています～

昨年 7 月に現地を訪問した際、今まで平日のランチ給食を支援してくれていた他の NGO が撤退するとの情報を知りました。

その後週末の土曜日曜の給食をサポートしている WRJ にも支援要請があり、ニュースレターやチラシ、ランニング感謝祭やチャリティーリレーforAFRICA など WRJ のイベントを通し緊急支援を呼びかけさせて頂きました。

2014 年 7 月、現地から平日支援の NGO の継続支援が決まった旨の情報が入った為、WRJ として頂いたご寄付を次の通り処置させて頂きました。

皆様から寄せられた 91,398 円は、取り急ぎ 2014 年 1 月と 8 月に週末分の給食支援の経費として送金した 2013 年度分と 2014 年度分 150,000 円/年×2 に充当させて頂くこととしました。なお、平日給食への緊急支援を呼びかけながら現地の状況の変化により頂いたご寄付の使途を従来の週末ランチ給食支援とさせて頂きました事ご理解を賜れば幸いです。

寄付をお寄せ頂きました皆様には心よりお礼申し上げますとともにご報告とさせて頂きます。

(加藤 典宇暉 WRJ 代表理事)

ケニア・ナイロビのキコンバスラム
プムワニの子どもと給食

gooddo の報告および 新しい寄付の仕組み ご案内

今年の 1 月より毎日クリックして支援につながる gooddo！に参加し、多くの皆様のご協力を頂き、10 月までの支援額が 100,000 円を超えました。

最近、高ポイントが出づらくなってきております。多くの方のご協力が欠かせません。ぜひこれからも毎日「ぽちっ」とお願いします。

http://gooddo.jp/gd/group/wrj/

また、11 月よりソフトバンクモバイル社で展開する「かざして募金」という寄付の仕組みにも参加することになりました。スマホなどでダウンロードしたアプリから WRJ のロゴなどをかざしていただくと、寄付画面に移動し、そこから簡単に寄付ができるという仕組みです。直接、寄付画面に行っていただくことも可能です。これらの取り組みによりいただいた寄付は、アフリカプロジェクトへの支援となります。

どうぞご協力よろしくお願いいたします。

私からのお願いです。 タンザニアの少女の奨学金スポンサーになってください。

貧困のため、中学校に行けない子供達、学びたくても、家事や家畜の世話に追われ、学校に通えない女の子達、女性に教育は必要ないとする伝統的な考え方やタブー、これらの困難に直面している少女達に、手を差し伸べてください。

今年のノーベル平和賞を受賞した、マララさん。彼女の言葉の中にも教育が大事であり、女性や子どもの権利が守られるべきだとあります。

ワールドランナーズ・ジャパンでは、タンザニアの貧しい家庭の少女に、教育の機会を提供するため、奨学金プログラムを創設し、スポンサーを募集しています。この取り組みは小さな一歩かもしれませんが、その一歩が大きな明るい未来を創ると信じています。

スポンサーは、1 口 1,000 円からご参加いただけます。

50 口で一人の少女が 1 年間学校で学べます。

お一人何口でも参加可能です。

(矢崎 芽生
WRJ 事務局長)

何を勉強しているのかなぁ？

新春ランニング感謝祭のご案内

来年２月に恒例の「第16回新春ランニング感謝祭」を以下要領にて開催します。皆様の参加をお待ちしています。

【日程】　2015 年 2 月 1 日（日）
【場所】　川崎多摩川緑地古市場陸上競技場をスタート・ゴールとするハーフマラソンコースの一部を使う往復コース
【種目】　5km、10km、ハーフ
【スタート時間】
　　ハーフ　　10：30
　　10km　　10：40
　　5km　　10：45
【参加費】　各種目とも　1 人　2,500 円
　　中学生以下　1 人　1,000 円
※詳しくは、同封のハンドアウトを参照ください。

ものまねアスリート芸人「M 高史」さんが、今年も応援に来てくれます。

昨年のスタート風景、一斉スタートの参加者

ものまねアスリート芸人「M 高史さん」

編集後記

フェスタが途中で打ち切りとなったのは、初めてのケースでした。イベントは、搬出まで含めて、無事に終了させることが大事。主催者の早めの決断だったようです。

思い出すのは大雨の中、開催した 2004 年の第 11 回 CR です。163 人の参加者でした。当時は、受付及び更衣テントや荷物管理のテントは、健康広場を使っていませんでした。受付は、急遽、噴水前の本部テントで行いました。また、更衣テントや荷物管理のテントは、日比谷門向かって左に設営していました。舗装されていますので足元が泥濘状態ではありませんでした。

今年は最悪のコンディションでした。参加されたランナーの皆様、ボランティアの皆様に本当に助けられました。有難うございました。大雨の中での大会運営を考えさせられた今年の CR でした。改善していきますので何卒宜しくお願いします。

1989 年 8 月に活動を開始した WRJ は、26 年目を迎えました。来年 1 月からタンザニアの少女の奨学金プロジェクトを始めることになりました。支援する子どものプロフィールが送られて来ています。皆様のお力が必要です。何卒宜しくお願いします。

(徳永　京一)

定期ラン(*since1994*)のご案内

WRJ ではランナーの交流の場として毎月第二日曜日に定期ランを開催しています。15:30 集合。

通常は皇居周回コース（１周 5km）で、竹橋・和気清麻呂銅像前をスタートし、走力に合わせて 1～3 周を走ります。（年に数回、多摩川や荒川等で開催しています。）

終了後 18:00 から懇親会を開催しています。（主に「白木屋　神田西口駅前店」）。

○参加希望・ご質問は、定期ラン連絡用メール (teiki-run@wrj.jp)へ、定期ランマネージャー佐藤、和田、鈴木理事に届きます。

※連絡が取れない場合は WRJ 事務局まで（044-949-1068　加藤方）

次回：12 月 14 日(日)(第 247 回)
集合：14 時 40 分
　　＊JR 神田駅北口　改札口前
　　15 時 30 分
　　＊竹橋駅・和気清麻呂銅像前

不定期ラン(*since2013*)のご案内

定期ランの番外編としてスタートした「不定期ラン」、いつどこを走るかは気分しだい。前回(8 月)は箱根駅伝のスタートから蒲田まで、蒲田の羽根付き餃子で懇親会にしました。

次回は 12 月 21 日(日)に横浜エリアでクリスマスラン。もちろん中華街で懇親会です。

写真は去年の横浜不定期ランです。

定期ランともどもよろしくお願いします。